

呉市資料

呉市国民健康保険事業の取り組み

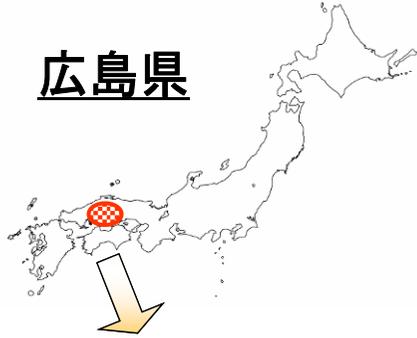


「アレイからすこじま」と赤レンガ倉庫

平成27年10月
広島県呉市

広島県呉市の概要

広島県



【人口】

234,613人 (H27年度当初)

うち、国保加入者 51,731人 (人口の約22%)

【高齢化率】 (H27年度当初)

約33%(同規模人口の都市では第1位 (参考)全国25.1% H25.10末)

高齢者人口 77,154人 (後期高齢医療被保険者数 39,228人)

国保加入者の高齢化率 約52%

(平成24年度 呉市 46.2% 広島県 37.9% 全国 32.5%)

※介護認定率 17.24%(参考)全国17.93%)

【医療の状況】

大規模病院の存在 400床以上の病院が3機関

一人当たり医療費(平成25年度) 42万5千円 (県の1.15倍, 国の1.32倍)

受診率(平成24年度 100人当たり) 呉市 1196.95 広島県 1119.28 全国 1002.14

大和ミュージアム



入館者数
1000万人達成

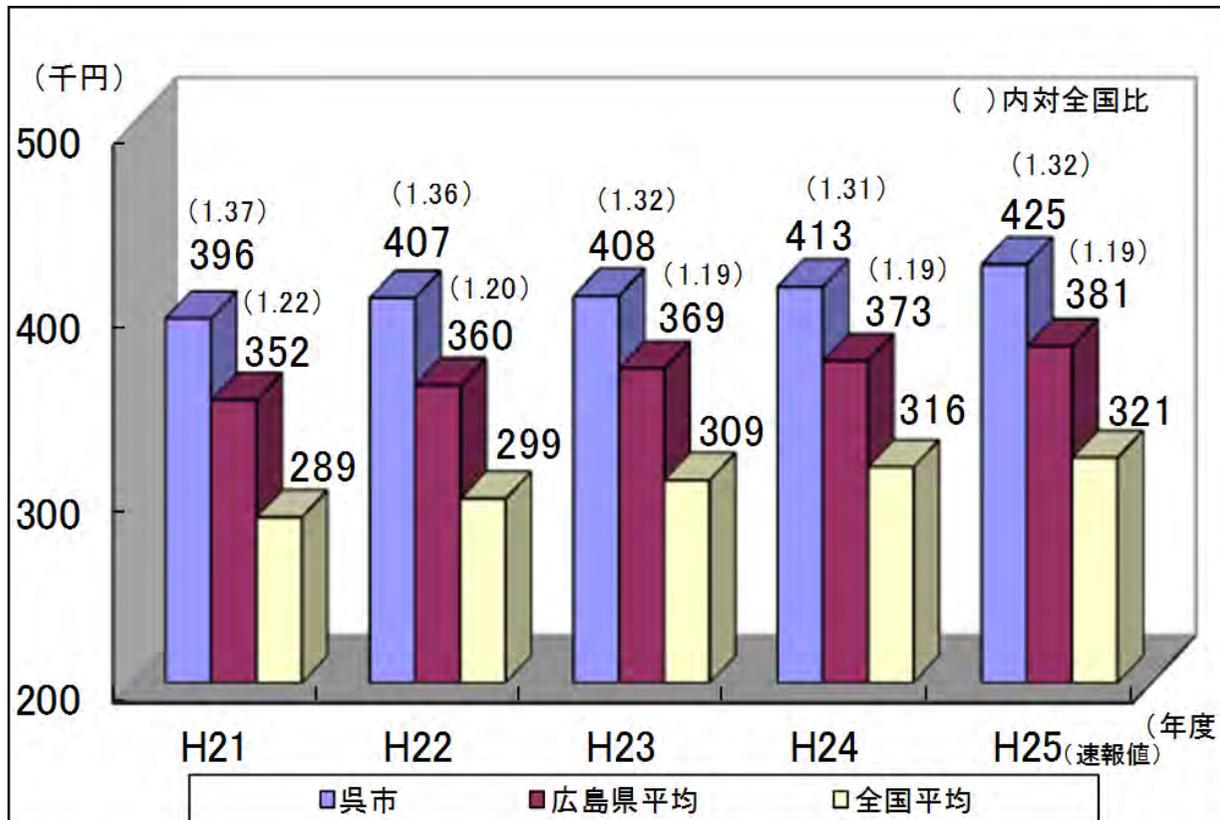
(平成27年5月)

鉄のくじら館



呉市国民健康保険の医療費等の状況

国民健康保険一人当たり医療費の推移

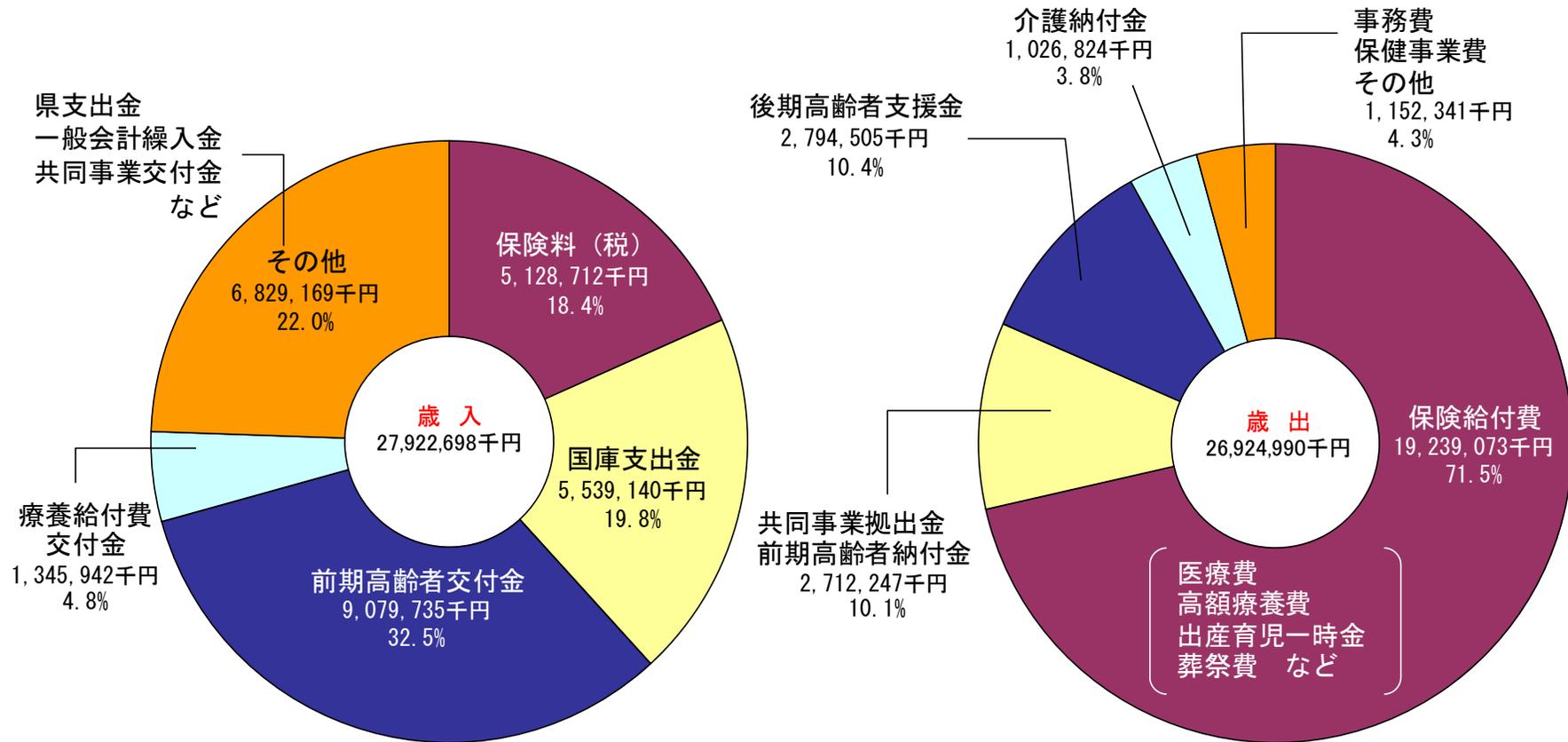


医療施設数・病床数の比較

(H25年度)

	人口10万 対医療施設数		人口10万 対病床数	
		全国比		全国比
全国	139	—	1,336	—
広島県	154	1.11	1,574	1.18
呉市	176	1.27	1,895	1.42

平成26年度 呉市国民健康保険事業特別会計決算状況



	<経常収支>	<収納率 (現年分)>	<基金年度末残高>
平成13年度	▲179,349千円	92.64%	5,372,426千円
平成22年度	71,685千円	92.81%	1,291,639千円
平成26年度	323,864千円	94.16%	2,279,639千円

レセプトのデータベース化導入の経緯

年	月	県 市	国(厚生労働省)	医師会・薬剤師会	
17		レセプトのデータベース化を検討, コストが高いため断念			
18	4		後発へ変更可能の, 医師の署名があれば薬剤師が調剤できるよう, 処方箋様式を変更		
	5	19年度を目標に始動委託方式を検討		医師会, 薬剤師会と事前協議を始める	
19	1	予算の査定			
	2	運営協議会でシステム導入について説明			
	8		厚生省, 医療費適正化対策として, ジェネリック薬品の利用促進を打ち出す	呉市地域保健対策協議会に, ジェネリック医薬品検討小委員会を設置, 市販後調査を医師・薬剤師・看護師を対象に実施	
20	1	システム導入予算満額内示		小委員会で市販後調査結果報告	
	2	13	20年度予算を報道にプレス		
	2	14	新聞報道, 運営協議会でシステムを説明		新聞報道により, 全国から強烈な反応
	3	19		保険医療機関及び保険医療費担当規則の一部改正	
	4			後発変更不可の署名がある場合以外は, 薬剤師が後発を調剤できるよう処方箋様式を変更	
	5				医師会, 歯科医師会, 薬剤師会に説明会開催(2回)
	6				市民公開シンポジウム「みんなで考えようジェネリック医薬品」開催
	7		第1回ジェネリック医薬品促進通知		
21	5			これまで使用されたジェネリックの情報について, 医師会に提供	
	7			医師会, 歯科医師会, 薬剤師会にジェネリック医薬品希望カードについて説明	
	9			ジェネリック医薬品希望カードを配布	

呉市における医療費適正化に向けての取組み

導入の契機

1 レセプト点検の充実・効率化

2 レセプト情報の活用による医療費等の分析

短期で効果のある施策

3 ジェネリック医薬品の使用促進通知

・生活習慣病等で長期にわたって服用し続けなければならない医薬品等について、切り替え可能なジェネリック医薬品の情報を被保険者に提供

【期待される効果】

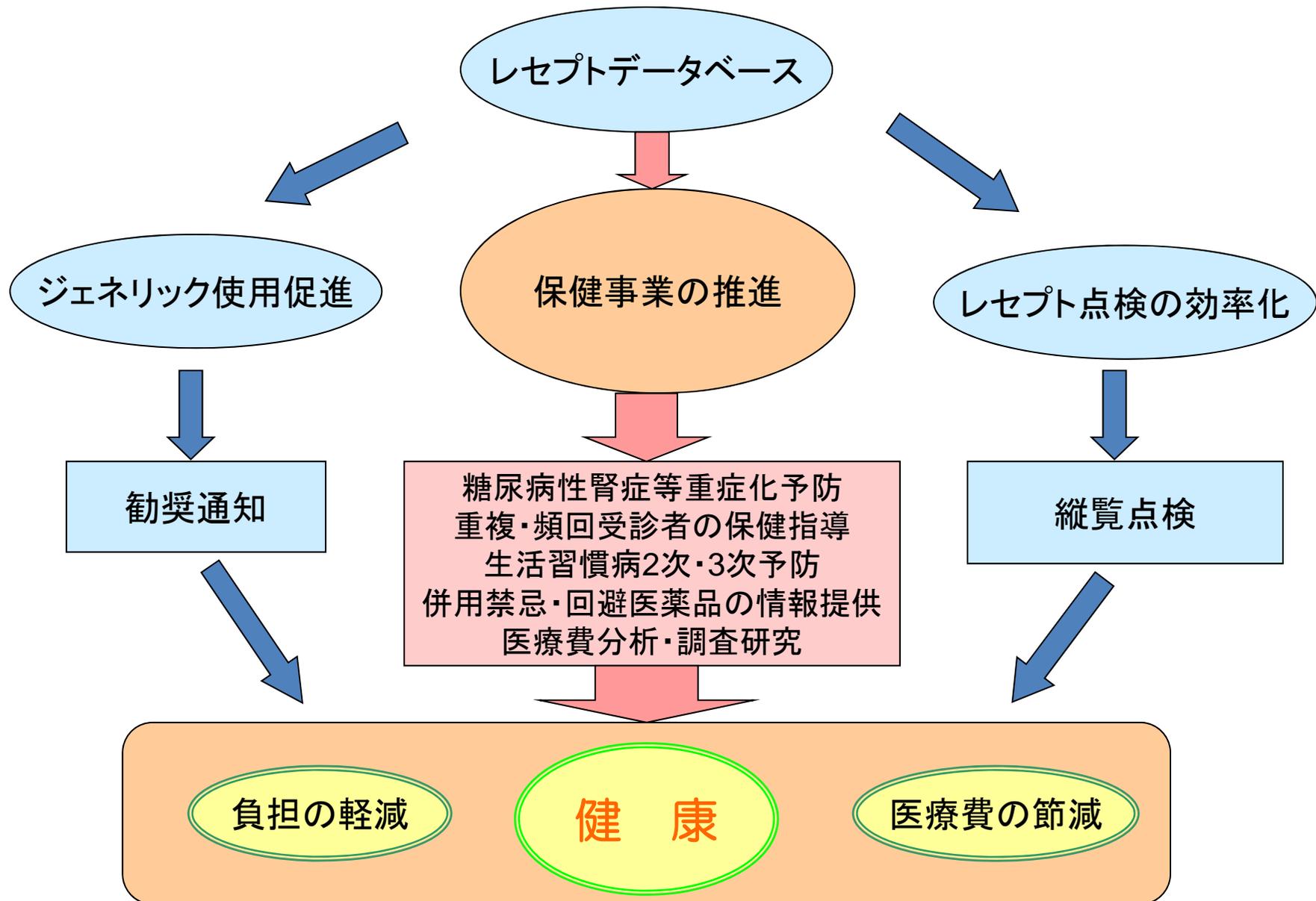
- ①保健事業の実施の財源確保
- ②医療費の適正化 ⇒ 保険料率の引き上げの抑制

中長期で適正化を図る施策

4 重症化予防など各種保健事業

1. 医療費の伸びが大きく、医療費が高額な疾病への対策
 - 糖尿病性腎症が重症化し人工透析に移行すると、1人当たりの年平均医療費は約600万円
→糖尿病の危険因子や腎機能障害が進行している人を早期に把握し、生活習慣病の危険因子の重複化や疾病の重症化を予防することが必要
2. 重複・頻回受診者、生活習慣病放置者等への適正受診に向けた訪問指導
3. 特定健診データとレセプト情報との参照による受診勧奨
4. 併用禁忌・回避医薬品処方情報の提供
 - ※レセプト分析により各事業のPDCAサイクル(計画・行動・評価・改善)が可能

健康管理増進システム（イメージ）



ジェネリック使用促進通知の成果について

平成20年7月から平成27年3通知分までの、累計切替者数の推移
 切替による効果の高いと思われる対象者約3,000人/月に通知

通知書送付月	通知回数	累計通知者数	累計切替者数	切替率
平成20年7月	1回	2,970	897	30%
平成20年8月	2回	6,427	1,815	28%
平成20年9月	3回	9,594	2,862	30%
平成20年10月	4回	11,528	3,448	30%
平成20年11月	5回	11,772	5,496	47%
平成20年12月	6回	11,899	6,079	51%
平成21年1月	7回	11,978	6,520	54%
平成21年2月	8回	12,183	6,906	57%
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
平成22年7月	25回	19,250	13,445	70%
平成22年8月	26回	19,555	13,747	70%
平成22年9月	27回	19,909	14,057	71%
平成22年10月	28回	20,160	14,368	71%
平成22年11月	29回	20,498	14,700	72%
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
平成26年11月	55回	29,741	24,937	84%
平成26年12月		29,741	25,083	84%
平成27年1月	56回	29,986	25,280	84%
平成27年2月		29,986	25,415	85%
平成27年3月	57回	30,299	25,598	84%

通知開始2年後には累計通知者の約70%が切替

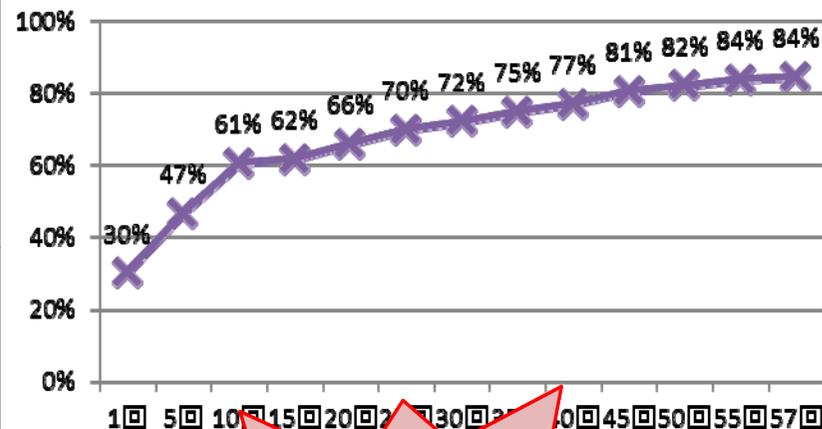
通知を継続することにより累計切替者数は増加

■レセプト枚数の内訳（月間）

医科(入院)	1,400枚	} 72,400枚
〃(入院外)	44,000枚	
調剤	27,000枚	
歯科	10,000枚	
計	82,400枚	

通知開始2年後(25回目の通知)には累計通知者の約70%が切替。
 現在では80%以上が切替。

呉市における切替率推移



累積薬剤費削減額
 平成27年3月まで
 857,713千円
 (通知数30,299)

※ 切替率: 累計切替者数 ÷ 累計通知者数
 ※ 平成23年度以降は隔月(偶数月)に通知

ジェネリック使用促進通知による費用対効果額

1. 費用対効果<平成26年度の実績>

【後発医薬品の使用促進通知】

費用額

郵便料(隔月約3,000通) 約1,000千円…①

効果額

医療費の減

204,124千円 …②

約203,124千円の減(②-①)

2. 個人別削減効果算出表(抜粋) 平成26年4月～平成27年3月診療実績

NO	H26.4月～H27.3月診療の実績(12か月分)			先発薬品に置き換えて換算	合計/削減効果	個人負担分 削減効果額 (3割負担で算出)
	合計/薬剤費	合計/先発金額	合計/後発金額	合計/薬剤費		
1	435,697	69,326	366,371	827,503	391,806	117,542
2	564,790	211,621	353,169	917,786	353,003	105,901
3	899,305	563,652	335,653	1,221,761	322,464	96,739
4	380,301	111,839	268,462	667,485	287,184	86,155
5	366,258	103,205	263,053	647,876	281,618	84,485
6	496,210	239,794	256,416	771,340	275,130	82,539
7	385,375	133,390	251,985	654,916	269,541	80,862
8	413,410	50,782	362,628	672,667	259,261	77,778
9	446,433	191,656	254,777	695,964	249,533	74,860
10	12,935,769	12,716,148	219,621	13,170,970	235,201	70,560
11	292,397	79,490	212,907	519,644	227,247	68,174
12	466,551	257,385	209,166	690,210	223,666	67,100
13	273,514	75,974	197,540	484,321	210,807	63,242
14	196,260	384	195,876	405,371	209,111	62,733
15	191,699	819	190,880	396,796	205,097	61,529
.
.
.
14979	9,654	9,048	606	9,654	1	0
14980	3,975	3,798	177	3,975	1	0
14981	2,870	2,674	196	2,870	1	0
合計	1,312,957,224	1,073,136,336	239,820,888	1,517,060,744	204,123,780	61,237,134

糖尿病性腎症等重症化予防事業の取組

【レセプトの見本】

診療報酬明細書 (医科入院外) 2国 平成26年 1月分 県番 34 医 80, 1003, 3 | 1医科 | 1国 | 2 | 2併6 家外

公費① 公費② 公費③ 公費④

保険 6 給割7

氏名 職歴上の事由 (注) 特記事項 保険医 療機関 の所在 地及び 名称

26.6.21

傷病名 (1) 顕微鏡的多発血管炎 (2) 代謝性アシドーシス、急性好酸球性肺炎、急性腎不全 (3) 発熱、甲狀腺機能低下症、薬剤性間質性肺炎 《以下、摘要欄》

11 初診 回 25年10月28日 3日

12 再診 70 × 3回 210 25年10月28日 25年10月28日

13 医学管理 10

14 夜間 深夜・緊急 在宅患者訪問診療 その他 薬剤

20 21 内服薬剤 21 単 455 9 × 1回 9

22 23 外用薬剤 28 単 161 外用薬剤 42 × 1回 42 26 麻酔 1回 2 27 調剤 8

30 31 皮下筋肉内 32 静脈内 33 その他

40 処置 2回 4690 処置 350

50 手術・麻酔 手術 薬剤

60 検査・病理 16回 1620 検査 薬剤

70 画像診断 4回 1910 画像 薬剤

80 処方せん その他 他薬剤

請求点 9,476 決定点 10,000 差額 9,350

※ 請求点 決定点 差額

診療報酬明細書 平成26年 1月分

公費① 公費② 公費③ 公費④

保険 記号・番号

診療報酬明細書

(2) *ウルソデオキシコール酸錠100mg「ZE」 3錠 2× 7 * (向) レンドルミンD錠0.25mg 1錠 3× 7 *ブレドニン錠5mg 4錠 フロセミド錠20mg「NF」 2錠 5× 7 *オルメテック錠20mg 1錠 13× 7

(25) *外来処方料 (6種類以下) 内科 算定 42× 1

(40) *1日, 6日 人工腎臓 (慢性維持透析・4時間以上5時間未満) 人工腎臓 (障害者加算) 人工腎臓 (透析液水質確保加算2) 2345× 2 ペンレステープ18mg 30.5mm×50.0mm 2枚 9× 2 ホローファイバーダイアライザー-KFシリウス KF-08 DINロック式ウェットタイプ0.8㎡I型 (人工腎臓AM-BCF AM-BC-13F (ダイアライザー 膜面積1.5㎡未満) (I) @1660 1本 <障害者加算「ア」> 166× 2

(60) *B-T P B-アルブミン BUN B-クレアチニン 尿酸 ナトリウム及びクロール カリウム カルシウム 項目算定 8項目 102× 1 *B-T P B-アルブミン BUN B-クレアチニン 尿酸 グルコース ALP B-ナトリウム及びクロール カリウム カルシウム 無機リン及びリン酸 B-Tcho Fe B-中性脂肪 マグネシウム LDLコレステロール 項目算定 16項目 121× 1 *B-UIBC フェリチン定量 151× 1 *C反応性蛋白 (CRP) 16× / 全 *β2-マイクログロブリン C反応性蛋白 (CRP) 131× 1 *6日 PTH BNP *血液採取料 (静脈) 16× 3 *検体検査管理加算 (I) 40× 1 *血液学的検査判断料 125× 1 *生化学的検査 (I) 判断料 144× 1 *免疫学的検査判断料 144× 1 *生化学的検査 (II) 判断料 144× 1

(70) *胸部 X-P (デジタル) 撮影回数 1回 画像電子化管理及び保存加算 (単純撮影) 210× 1 *1日 画像診断管理加算2 (コンピュータ断層診断) 180× 1

** 次頁へ続く ** (2ページ) ** 次頁へ続く ** (3ページ)

レセプトデータによる医療費分析（医療費グルーピング）

レセプト例	
傷病名	1. 顕微鏡的多発血管炎（主） 2. 心不全 3. 慢性腎不全 4. 2型糖尿病 5. 不眠症 6. 代謝性アシドーシス }
	24. 高尿酸血症
摘	レンドルミンD錠0.25mg 3 × 7 トラゼンタ錠5mg 21 × 7 オルメテック錠20mg 13 × 7 }
	薬剤情報提供料 10 × 1
要	人工腎臓(慢性維持透析) 2205 × 2 人工腎臓(障害者加算) 120 × 2 透析液供給装置加算 10000 × 2 }
	血液採取量(静脈) 16 × 3 検体検査管理加算(I) 16 × 1 血液学的検査判断量 125 × 1 }
	コンピューター断層診断 450 × 1
合計 9,476点	

主傷病で集計する医療費分析では、傷病名が24個あるにもかかわらず、特定の傷病名に集約されてしまいます

1. 顕微鏡的多発血管炎 9,476点

主傷病以外の
2. 心不全
3. 慢性腎不全
4. 2型糖尿病
など他の23個の医療費は “0点”

《医療費グルーピング》
処方薬・診療行為との関連から
傷病ごとの医療費に分解

1. 顕微鏡的多発血管炎	123点
2. 心不全	420点
3. 慢性腎不全	4,859点
4. 2型糖尿病	283点
5. 不眠症	135点

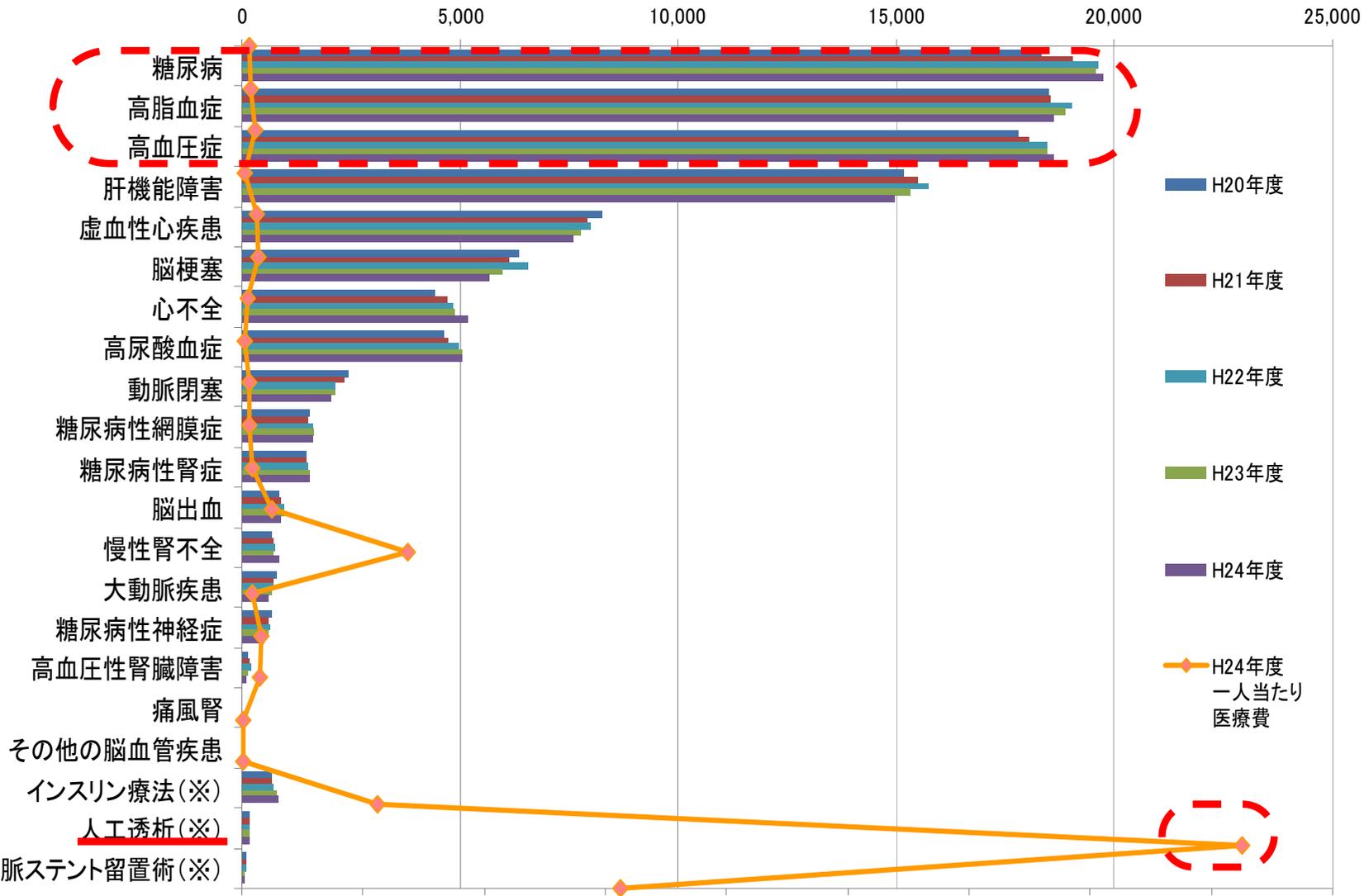
治療対象外の疾病

6. 代謝性アシドーシス

レセプト分析による呉市の生活習慣病の状況

呉市国保 生活習慣病 疾病別人数と一人当たり医療費

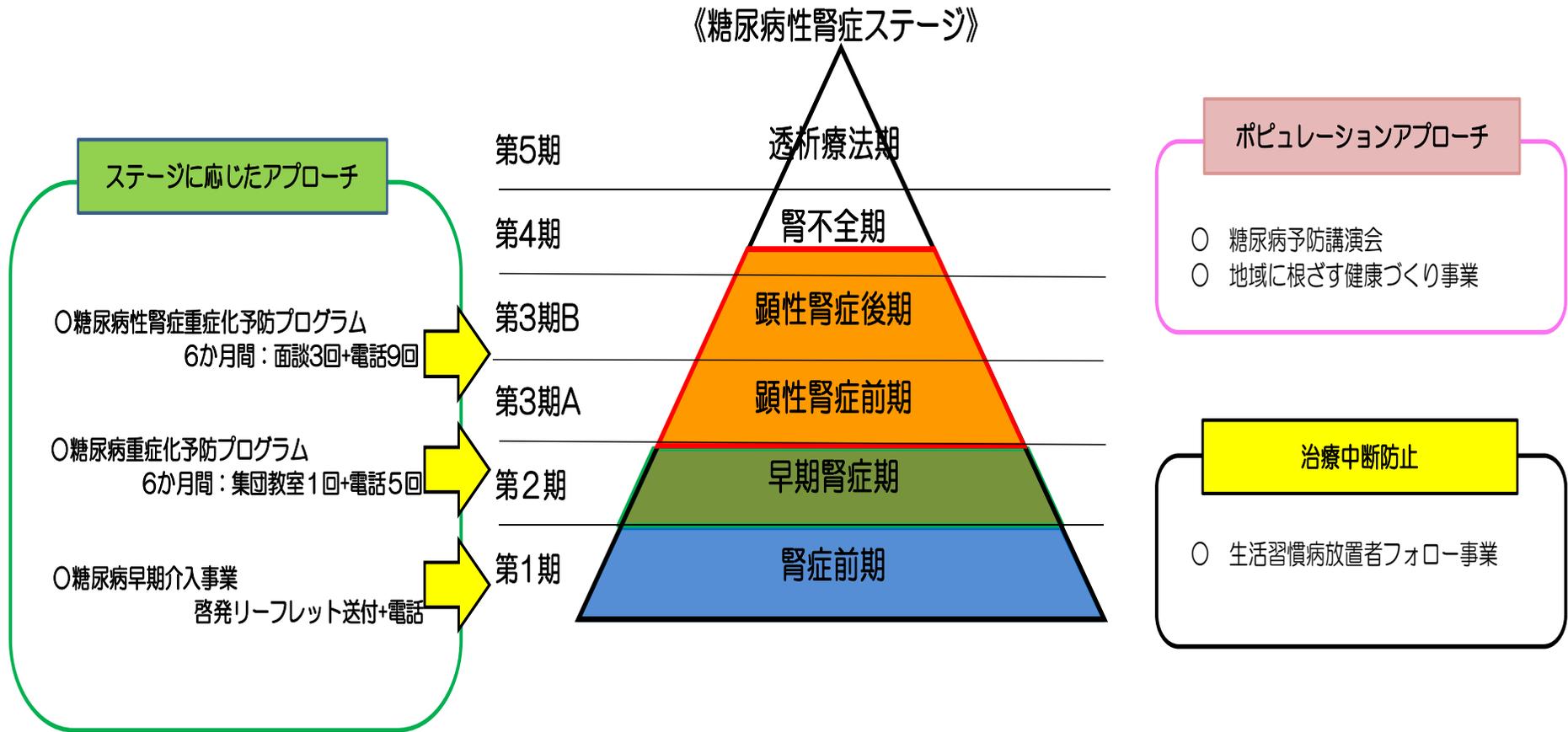
(人)



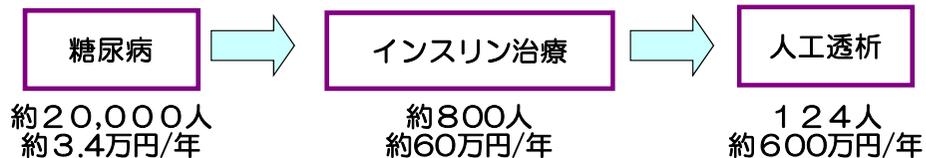
※ 請求点数の金額

(円)

糖尿病性腎症等重症化予防事業

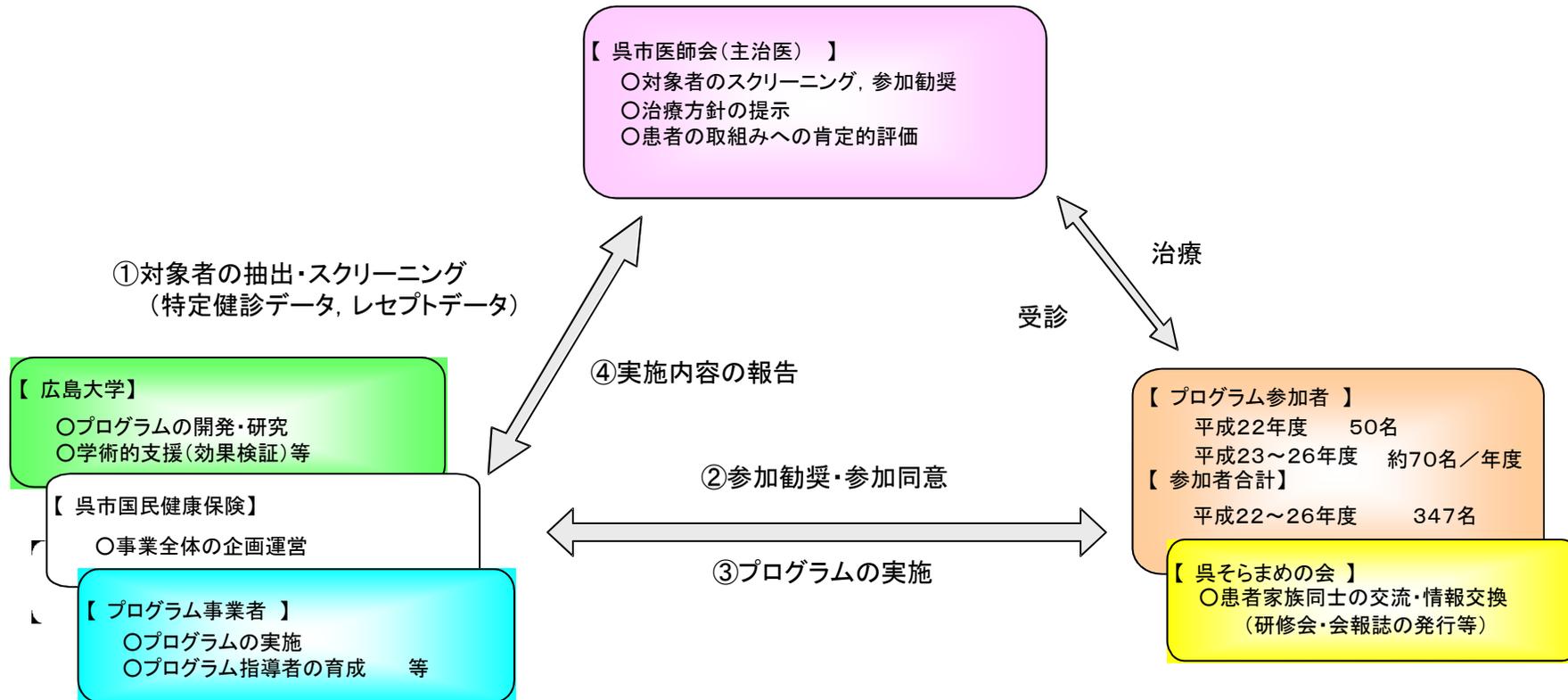


【参考】H24レセプトデータより集計



※疾病分類は厚生労働省水嶋研究班の疾病分類により集計した
 ※医療費は医療費グルーピングによる分解値を用いた
 ※人工透析は2ヶ月以上継続して実施している者で集計した

糖尿病性腎症等重症化予防プログラム（実施イメージ）



呉市糖尿病性腎症等重症化予防プログラム

- 専門的な訓練を受けた看護師による個別支援。
- 期間は6か月。(●面談指導:3回, ○電話指導:9回)

1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月
●○	●○	●○	○○	○○	○○

- 食事の実践方法を学ぶ「腎臓にやさしい料理教室」を開催。
- プログラム終了後も6か月ごとにフォローアップ。
- 患者・家族会「呉そらまめの会」により, 終了後も交流, 研修を実施。

腎臓病治療の三本柱は



糖尿病性腎症等重症化予防対象者の抽出・参加者の決定(H26年度)

【1】 対象者の 抽出

抽出法		抽出数
レセプトからの抽出	糖尿病性腎症2期	383
	糖尿病性腎症3期	983
	糖尿病性腎症4期	27
特定健診からの抽出	HbA1c+Cre	29
	HbA1c	51
計		1473

【2】主治医にスクリーニングを依頼

630人 40医療機関

【3】主治医のスクリーニング後、案内対象

449人 40医療機関

【4】参加者の状況

病期	人数
腎症3a期以上	14
腎症2期	35
腎症1期	7
不明	26
合計	82

年齢	男性	女性	計
50~54	0	1	1
54~59	1	0	1
60~64	8	5	13
65~69	18	11	29
70~74	25	13	38
合計	52	30	82

※ 協力医療機関数 26医療機関

呉市地域総合チーム医療(糖尿病性腎症重症化予防)実施フロー

〔糖尿病性腎症重症化予防事業スケジュール〕

	プログラム開始前	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月
主治医	①, ②	→					③
歯科医師		④		→			⑤
薬剤師		⑥		→			⑦
疾病管理会社	(①, ②)	面談 電話	面談 電話	面談 電話	電話 電話	電話 電話	電話 電話

(参考)インセンティブの対象となる業務内容等

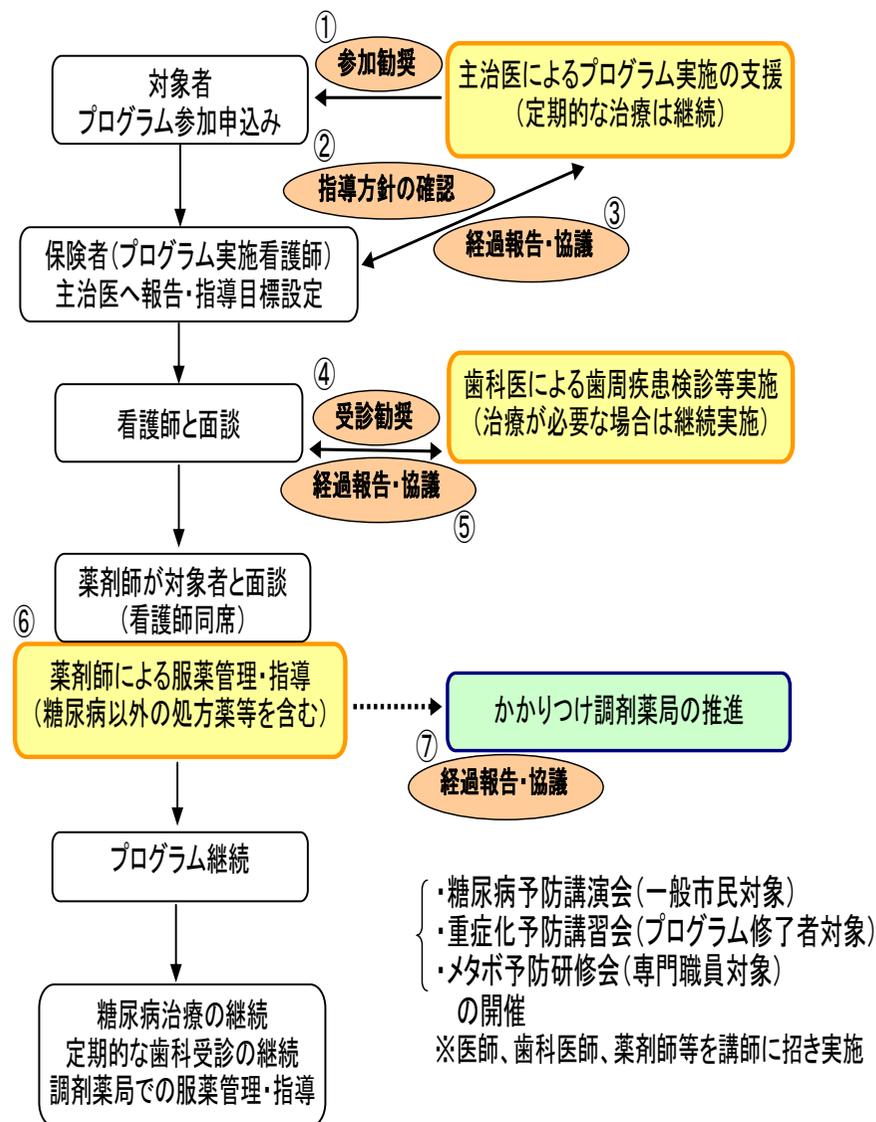
主治医		実施内容	インセンティブ	回数	合計
①	プログラム開始前	レセプトデータ等から抽出した候補者のスクリーニング及び参加勧奨	3,000	× 1	3,000円
②	"	参加同意者の開始前検査数値等の確認と指導方針の指示及び設定目標の協議			
③	3か月目	プログラム実施者の検査数値等の確認と指導方針の協議	2,500	× 2	5,000円
③	6か月目	プログラム終了時の目標達成度の確認と終了後のフォロー体制等の協議			
計					8,000円

歯科医師		実施内容	インセンティブ	回数	合計
④	1~3か月目	糖尿病重症化の一因となる歯周病について、未受診者の検診と口腔衛生等の教育	4,180	× 1	4,340円
⑤	6か月目	プログラム終了時の目標達成度の確認と終了後のフォロー体制等の協議	2,500	× 1	2,500円
計					6,840円

薬剤師		実施内容	インセンティブ	回数	合計
⑥	1~3か月目	面談による処方薬等の確認、服用方法の指導及び調剤処方等に関する主治医等との連絡調整	3,250	× 1	3,250円
⑦	6か月目	プログラム終了時の目標達成度の確認と終了後のフォロー体制等の協議	2,500	× 1	2,500円
計					5,750円

※公共施設において、看護師との面談時に、対象者の服薬状況等を確認し指導を行う。

〔地域総合チーム医療介入フロー〕



- ・糖尿病予防講演会(一般市民対象)
 - ・重症化予防講習会(プログラム修了者対象)
 - ・メタボ予防研修会(専門職員対象)
- の開催
※医師、歯科医師、薬剤師等を講師に招き実施

参加者が実際に設定した行動目標(例)

食事編

- かけ醤油をつけ醤油に変える
- 野菜から食べる
- 夕食後のフルーツを朝に変更する
- 夕食後の間食を控える(やめる)
- お菓子の買い置きをしない
- 夕食後から就寝までは2時間あける
- ビールは1日500ml 2本を1本に減らす
- 1日1食は低たんぱく米を食べる
- 汁物は1日1杯にする
- 麺類の汁を残す
- ミカンは他の人に配り、目の届くところに置かない(自宅にあるミカンの量を減らす)

など

運動編

- バス停は1つ手前で降りて歩く
- 買い物は歩いていく
- 朝食後に20分散歩する
- ストレッチを15分行う
- 週3回、夕食後30分ウォーキングする
- よく歩き、筋力を落とさないようにする

など



健康管理手帳について

- 参加者のセルフモニタリングによる自己効力感の向上
- 主治医を始めとした関係者間で指導内容等の情報共有



●毎日のチェック表

今月の目標：
年 月

体重 (kg)	朝			夕			-むくみ -息切れ -頭痛 など
	血圧 (mmHg)	脈拍/分	脈率	血圧 (mmHg)	脈拍/分	脈率	
1日							
2日							
3日							
4日							
5日							
6日							
7日							

今月のおまった薬：
年 月

その日の出来事・気がついたこと (服、旅行、食生活、ストレスなど)	医療スタッフからのコメント



●足裏を観察しましょう
小さな傷、タコ、ウオノメ、水虫、靴ずれやしびれなど異常がある場合は、かかりつけ医に相談しましょう。

1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目
月 日	月 日	月 日

糖尿病性腎症等重症化予防プログラムの結果①

生理学的指標 【血糖値】

HbA1cのコントロールは、平成25年度プログラム参加者の修了時では、約87%の者が維持改善をした。フォロー支援に参加した者においても同様に維持改善をしていた。

表：血糖コントロールの変化（平成25年度プログラム修了者）

		6ヶ月後HbA1c(%)			
		6.0未満	6.0～6.9	7.0～7.9	8.0以上
開始時	6.0未満	1	1		
	6.0～6.9	23	16	4	1
	7.0～7.9	16	6	9	1
	8.0以上	13	3	4	6
53 計		2	26	17	8

(人)

※日本糖尿病学会編「糖尿病治療ガイド2012-2013」血糖コントロール目標参照

糖尿病性腎症等重症化予防プログラムの結果②

生理学的指標 【腎機能】

CKD重症度分類によるeGFR（推測糸球体濾過量）区分では，平成25年度プログラム参加者の修了時では，約89%の者が維持改善をした。フォロー支援に参加した者においては5～7割の者が維持改善し，悪化した者においては，G5に至った者はいなかった。

表 eGFR（推測糸球体濾過量）の変化（平成25年度プログラム修了者）

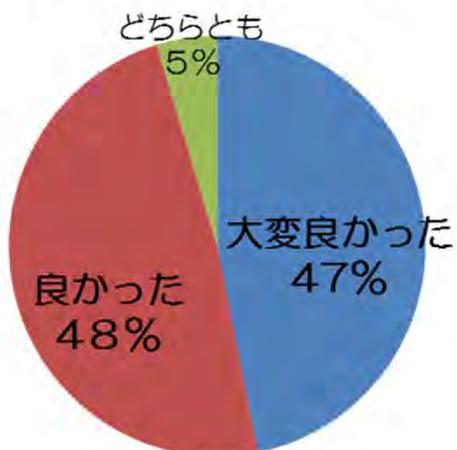
		6ヶ月後ステージ					
		G1	G2	G3a	G3b	G4	G5
開始時	ステージ（eGFRによる区分）						
	G1（ $90 \leq eGFR$ ）	1					
	G2（ $60 \leq eGFR < 90$ ）	19	16	3			
	G3a（ $45 \leq eGFR < 60$ ）	8	1	7			
	G3b（ $30 \leq eGFR < 45$ ）	6		1	4	1	
	G4（ $15 \leq eGFR < 30$ ）	1				1	
G5（ $eGFR < 15$ ）	0						
	35 計	1	17	11	4	2	0

※日本腎臓学会編「CKD診療ガイドライン2013」CKD重症度分類参照

事業評価アンケート(平成26年度)

参加者

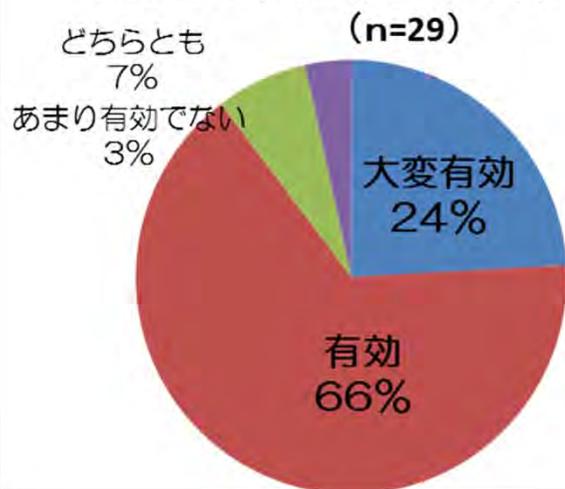
プログラムに参加したこと(n=64)



- ◎ 看護師さんの説明は大変わかりやすく、やる気を起こさせる指導に感謝いたしています。自分のことは自分が良わかっていると思っていましたが、間違っていた事も今回理解できました。
- ◎ 看護師さんの指導を参考にして野菜中心の食事にしたところ約半年でHbA1cが8.6だったのが6.1まで下がりました。今後も、この食生活や運動を続ければ糖尿病も乗り越えられそうな気がします。

主治医

本事業は疾患の重症化予防に有効か?



- ◎ 食事療法、食事指導が診療中の限られた時間では難しく、大問題であったが、保健指導でコツをつかんで良くなる人がある。続けられるとよい。
- ◎ 患者さんが前向きに対応されるようになった。

「呉 そらまめの会」 ～研修会・料理教室～

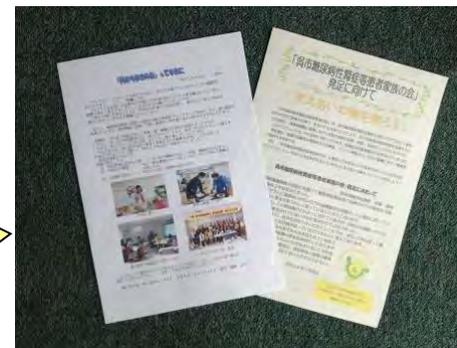
平成24年3月発足

- 患者・家族等の相互の支えあいにより，プログラム終了後も患者自らの体調の維持管理を支援。
- 関係諸機関と連携しながら，情報の収集・発信・交流を行う。
会報誌の発行，研修会・交流会の開催，料理教室への参加等

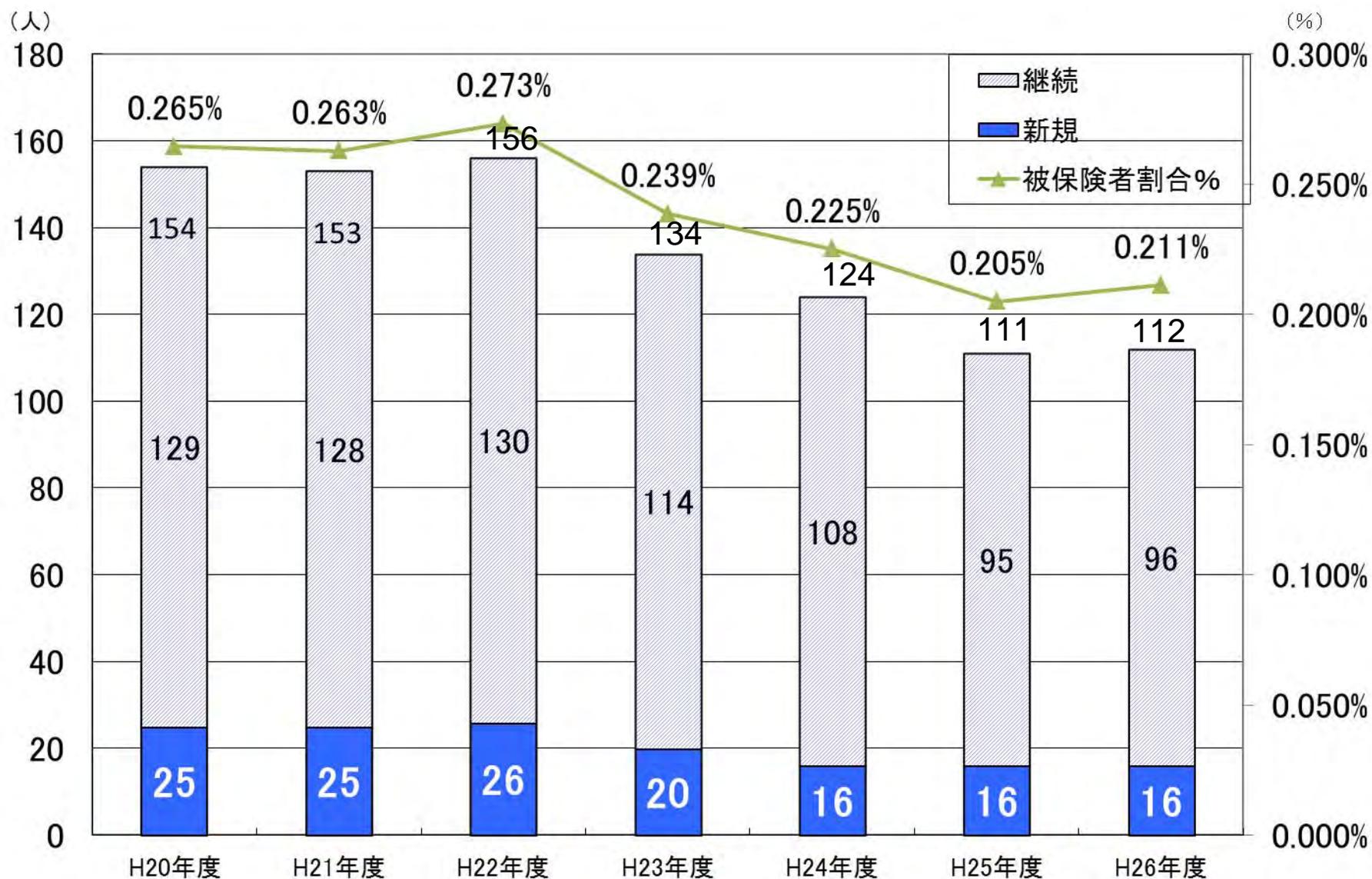


食事内容チェック
とグループワーク
をしました。
(H24.10)

体験談などを載
せた会報誌



呉市国民健康保険 人工透析者数 年次推移



※ 集計条件:人工透析を2か月以上継続し,集計年度末に資格を有する者。

呉市糖尿病性腎症重症化予防事業 医療費適正化効果の分析結果の概要

- 【目的】広島県呉市で実施された糖尿病重症化予防事業(糖尿病疾病管理)の医療費適正化効果を評価する。
- 【方法】糖尿病腎症としてレセプトから抽出された集団を、糖尿病疾病管理プログラムを受けた群(172人:介入群)と受けなかった群(対照群)のそれぞれの医療費への影響を測定するため、2010~12年のパネルデータを「差の差分分析(difference in difference analysis)」で費用関数を推定した。
- 【結果】疾病管理を受けたグループ(介入群)は受けないグループ(対照群)に比して、透析費用のみについては介入後半年間で見た場合で平均的に**51.3%**低くなり、総医療費(但し透析費用を除く)では同様に平均的に**8.5%**低くなった。

出所)河口・森山・橋本(2015)“ Whether Disease Management Is Effective for Cost Containment: A New Evidence by Difference in Difference analysis from panel data in Japan ” 国際医療経済学会(ミラノ大会2015.07.15)口頭発表より作成

脳卒中再発予防事業の概要

1 背景

脳卒中は、本市において、がん、心疾患、肺炎に次いで死因の第4位を占め、また、死亡を免れても重大な後遺症を残すことが多く、要介護状態となる最大の要因である。このため、患者とその家族は発症前に比べ生活にしばしば支障をきたす。

また、脳卒中の累積再発率は、1年で10%、5年で30%、10年で50%と言われており、高血圧、糖尿病等の危険因子（基礎疾患）に関連した生活習慣の是正がなければ再発のリスクは維持されたままといえる。

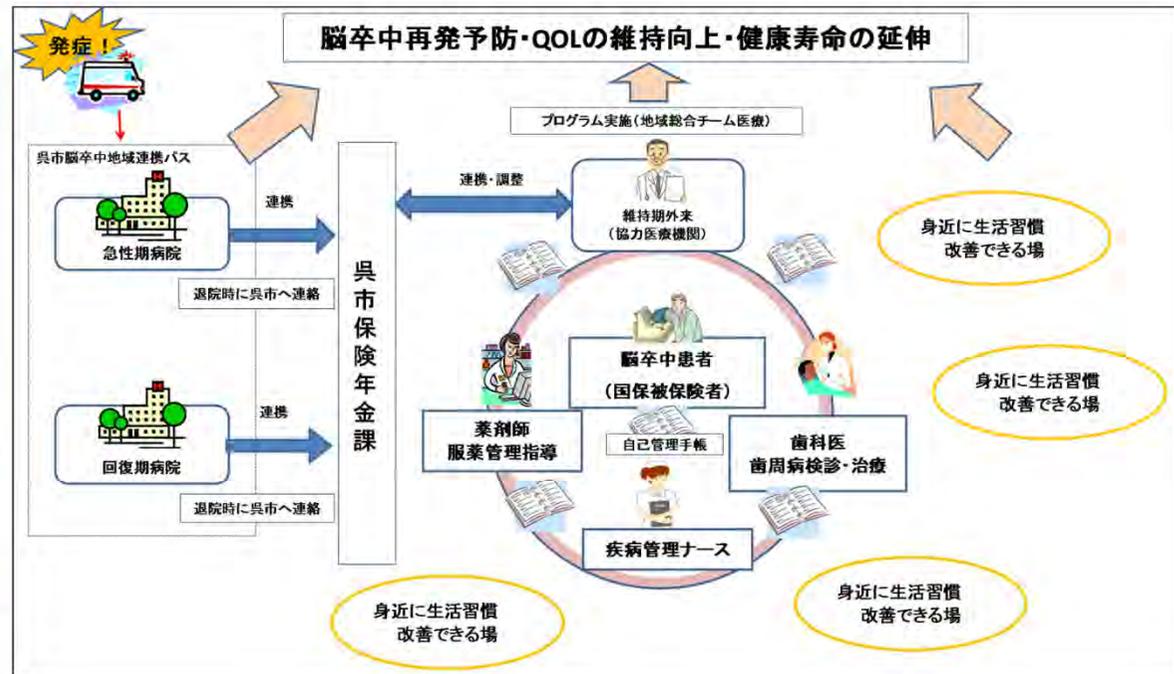
2 目的

脳卒中の再発予防・重症化予防のための患者や家族に対する保健指導プログラム（以下、「プログラム」。）を呉市地域総合チーム医療によって提供することと、市民の誰もが身近に生活習慣の改善等を図ることができる場を呉地域保健対策協議会との連携によって整備し、その再発を予防し、患者や家族のQOLの維持向上を図り、市民の健康寿命の延伸への寄与を目的とする。

3 取組み内容

呉脳卒中地域連携パスとの連動によって次の事項を行う。（イメージ図）

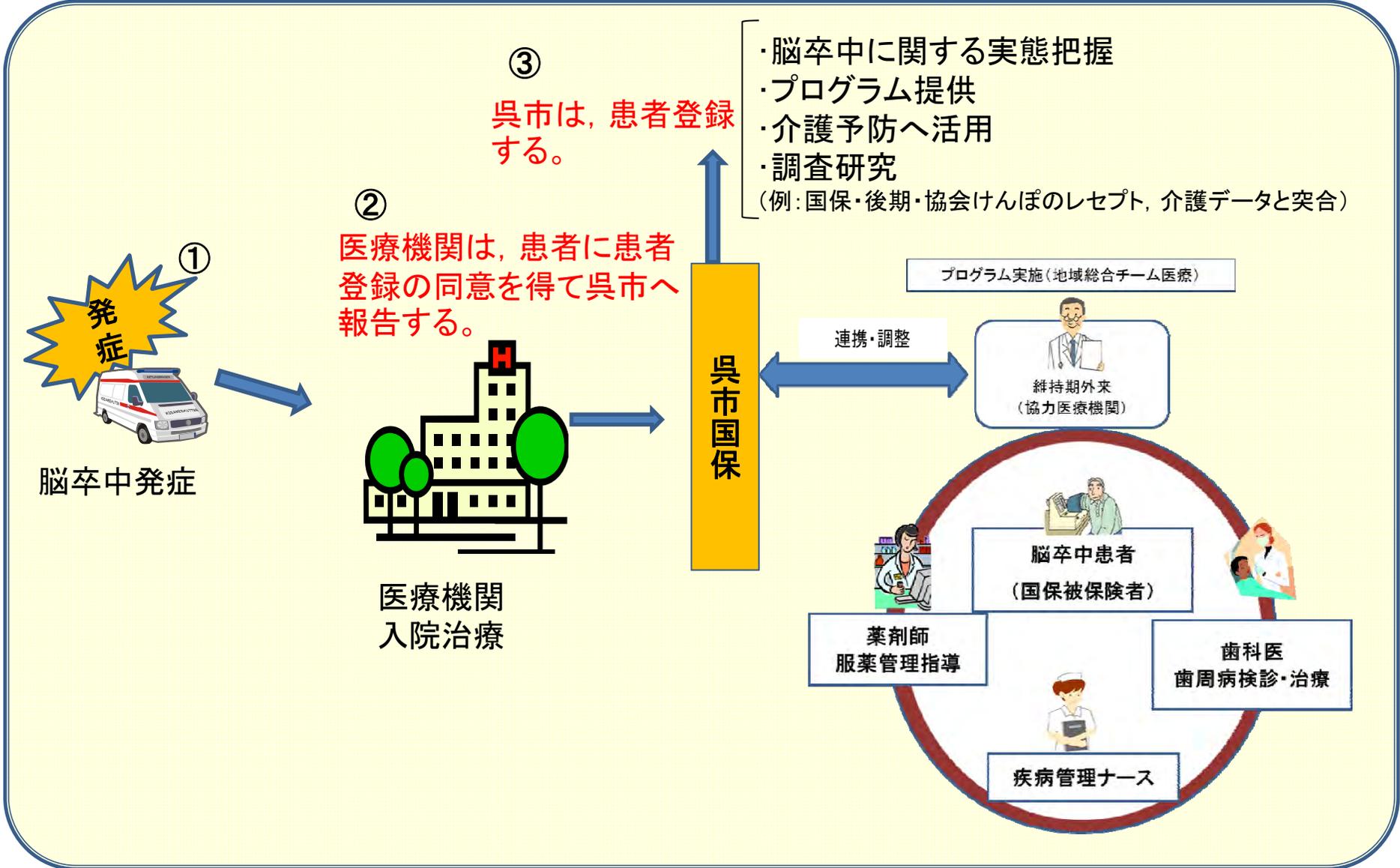
- ① プログラムの実施（地域総合チーム医療）
- ② 地域連携パス（自己管理手帳）の作成
- ③ 市民の誰もが身近に生活習慣の改善等を図ることができる場の整備



4 推進体制

呉市地域保健対策協議会（地域総合チーム医療推進専門部会、脳卒中クリニカルパス推進ワーキンググループ）、広島大学大学院医歯薬保健学研究院、呉市との連携にて推進する。

呉市脳卒中登録ネットワークのながれ(案)



地域総合チーム医療の推進(目標等)

目指すべき姿(目標)

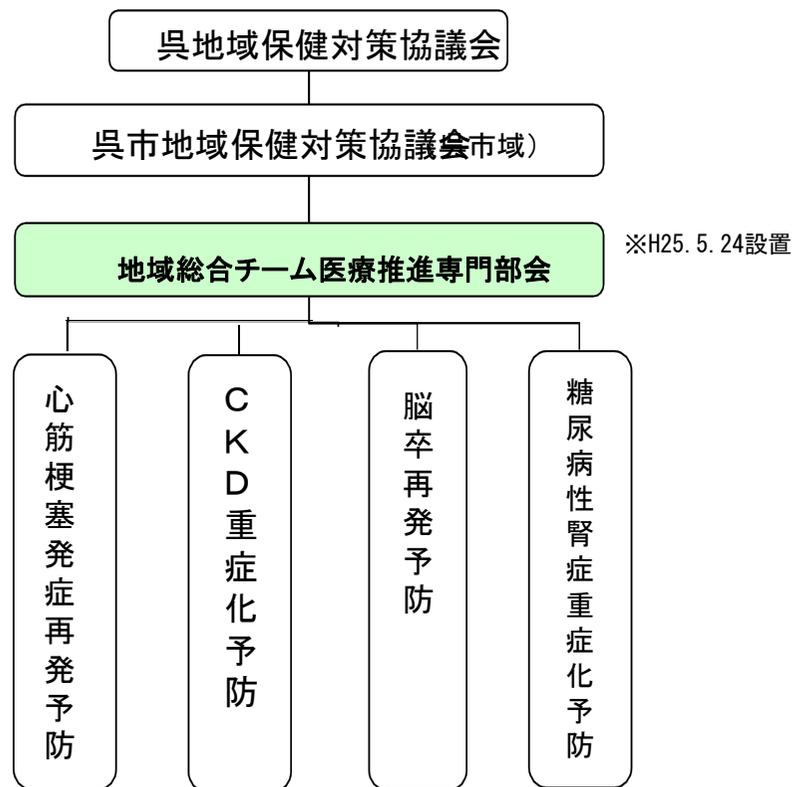
患者・住民のQOLの向上
《健康寿命日本一のまち》

多職種アプローチによる疾病管理

多職種間の連携により疾病管理・保健事業を実施し、
地域総合チーム医療として、情報の収集・共有を図る

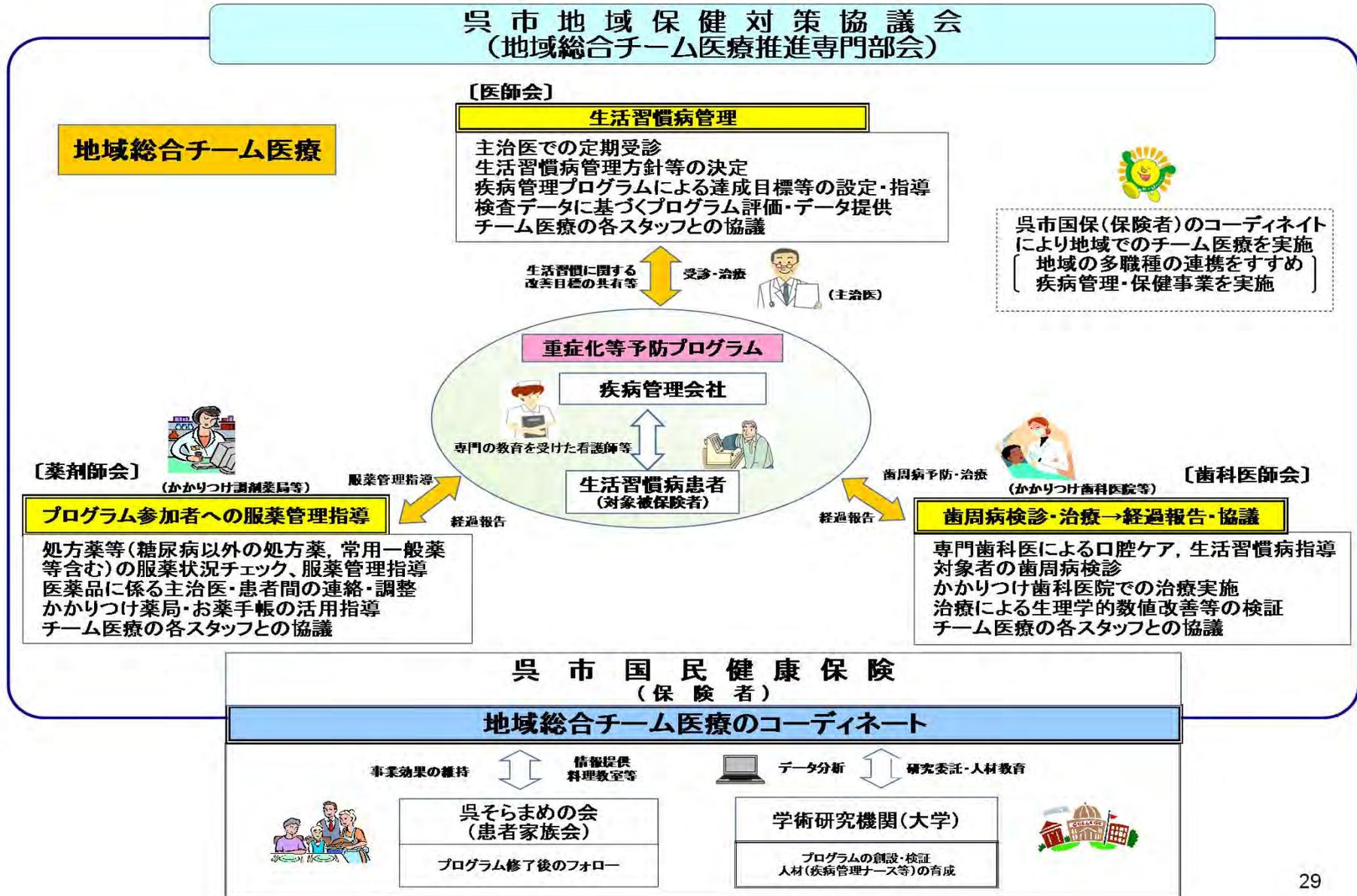
生活習慣病の発症予防、並びに重症化予防及び慢性期
の維持を、関係機関等のシームレスな連携と保険者の
調整によりフォローアップする仕組みづくり

推進体制



呉市地域保健対策協議会で 呉市域での地域総合チーム医療の推進等について検討。
(医師会, 歯科医師会, 薬剤師会と呉市国保が, 地域で行うチーム医療の実施に必要な協議 調査等を進める)

呉市地域総合チーム医療（実施イメージ）



重複・頻回受診者等訪問指導事業

重複受診者リスト

診療年月：平成22年 3月～平成22年 5月

保険証情報	医療区分	氏名	年齢	性別	診療年月	傷病名	医療機関名	受診回数	点数
一般	郵便番号	住所	74	女性	22. 5	慢性胃炎	外科	8	968
						慢性胃炎	クリニック	2	866
						慢性胃炎	外科	4	1649
					22. 4	慢性胃炎	外科	2	344
						慢性胃炎	クリニック	1	433
						慢性胃炎	外科	5	2425
					22. 3	慢性胃炎	外科	6	879
						慢性胃炎	クリニック	2	868
						慢性胃炎	外科	2	1668
一般	郵便番号	住所	58	女性	22. 5	高脂血症	クリニック	1	156
						高脂血症	クリニック	3	1135
						高脂血症	クリニック	2	768
					22. 4	高脂血症	クリニック	1	156
						高脂血症	クリニック	2	864
						高脂血症	クリニック	2	768
					22. 3	高脂血症	クリニック	1	157
						高脂血症	クリニック	2	868
						高脂血症	クリニック	2	764

1/1

重複受診者

同一月に同一疾患で、3医療機関以上受診している方

(平成24年度実施状況)

対象者 47人
 訪問指導実施者数 10人
 効果額 52万円

頻回受診者

1医療機関に1か月あたり15日以上受診している方

(平成24年度実施状況)

対象者数 530人
 訪問指導実施者数 147人
 効果額 1,351万円

頻回受診者リスト

平成22年 3月～平成22年 5月

保険証情報	医療区分	氏名	年齢	性別	診療年月	精神	受診回数	主病名	副病名	医療機関名	点数
一般	郵便番号	住所	65	男性	22. 5		19	糖尿病	急性胃腸炎、痛風、心身症、食欲不振、肝硬変症、高血圧症		4324
					22. 4		24	糖尿病	急性胃腸炎、痛風、心身症、痔核、食欲不振、肝硬変症、血尿、高血圧症		5345
					22. 3		23	糖尿病	痛風、心身症、痔核、食欲不振、肝硬変症、血尿、高血圧症		5444
一般	郵便番号	住所	48	男性	22. 5		18	高脂血症、統合失調症	糖尿病、不整脈、脂肪肝、肝障害、高血圧症	クリニック	14118
					22. 4		21	高脂血症、統合失調症	糖尿病、不整脈、脂肪肝、肝障害、高血圧症	クリニック	17380
					22. 3		22	高脂血症、統合失調症	糖尿病、不整脈、脂肪肝、肝障害、高血圧症	クリニック	17478

1/1

併用禁忌・回避医薬品情報提供事業

平成23年度から、医師会でスクリーニングを実施した後に、関係医療機関に情報提供。
医療機関で確認後、指導している。

薬剤の併用禁忌・回避一覧

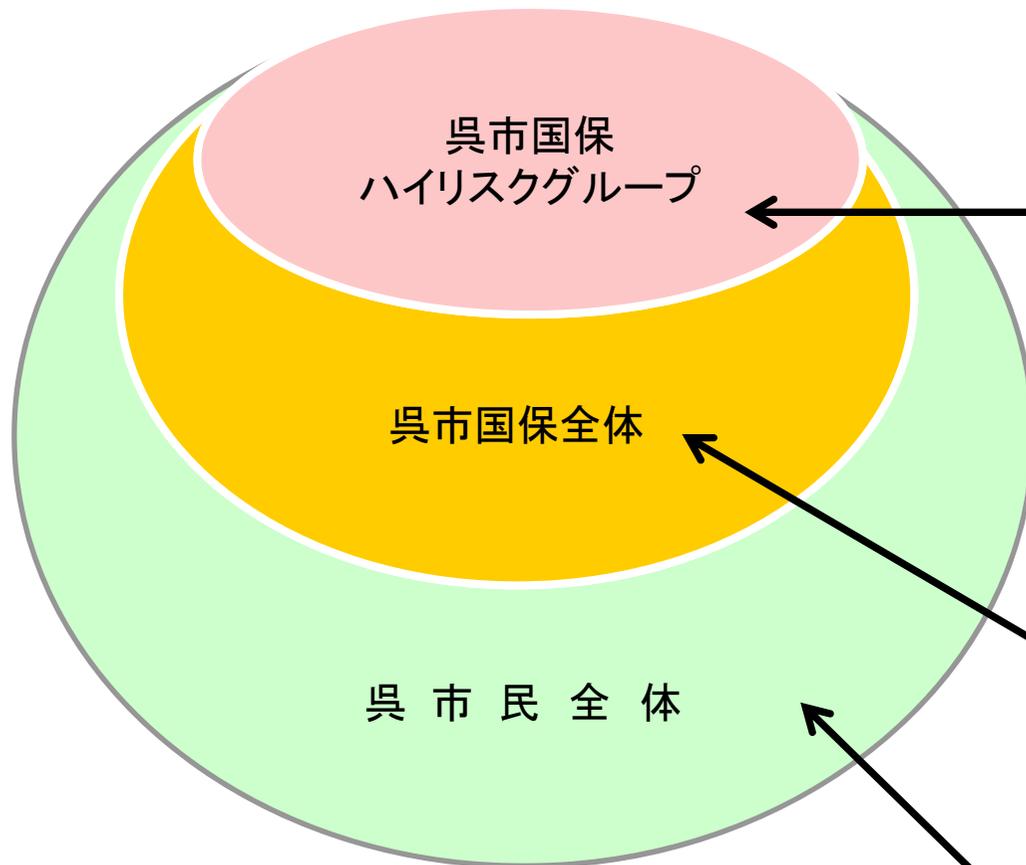
(平成22年10月～平成22年12月)

患者コード	レセプト番号 医療機関	薬品	レセプト番号 医療機関	薬品	レベル	コメント	作用機序
9630		シプロフロキサシン錠		チザニジン塩酸塩	併用禁忌	BのCmax、AUCが上昇し、血圧低下、傾眠、めまい等が発現の報告→併用禁忌	Aの肝代謝酵素(CYP1A2)阻害作用により、Bの代謝が阻害され、血中濃度が上昇する
67205		ソビクロン		トリアソラム	併用回避	Bの作用増強→併用回避(併用時は慎重に投与)	相加作用(中枢神経抑制作用)
87210		フルジアゼパム		エチソラム	併用回避	Aの作用増強→併用回避(併用時は慎重に投与)	相加作用(中枢神経抑制作用)
97594		ニメタゼパム		ジアゼパム	併用回避	Aの作用増強→併用回避(併用時は慎重に投与)	相加作用(中枢神経抑制作用)
108372		ニトラゼパム		塩酸クロルプロマジン	併用回避	中枢神経抑制作用増強→併用回避(併用時は慎重に投与)	相加作用(中枢神経抑制作用)
116022		クロラゼパ酸2カリウム		トリアソラム	併用回避	中枢神経抑制作用増強→併用回避(併用時は慎重に投与)	相加作用(中枢神経抑制作用)
73895		L-グルタミン配合剤		セレコキシブ	併用回避	Bの作用減弱→併用注意(同時服用不可)	配合成分の制酸剤の吸着により吸収が阻害される
113453		酸化マグネシウム		リセトロン酸ナトリウム水和物	併用回避	Bの吸収低下、効果減弱→併用注意(同時服用不可)	Aの金属イオンが、Bと不溶性のキレートを形成して、腸管からの吸収を阻害
89582		酸化マグネシウム		塩酸フェキソフェナジン	併用回避	Bの吸収・排泄に影響→併用注意(間隔をあける)	AがBを吸着、又はAにより胃内や体液のpHが上昇し、Bの吸収・排泄に影響を与える

併用禁忌・併用回避通知件数

年度	併用禁忌		併用回避	
	対象者数(人)	医療機関数(件)	対象者数(人)	医療機関数(件)
平成23年度	2	2	55	36
平成24年度	1	1	34	19
平成25年度	8	8	29	18
平成26年度	2	2	18	12

呉市国保 保健事業イメージ



ハイリスクアプローチ(国保のみ)

- 特定保健指導
- 生活習慣病放置者フォロー事業
- 受診勧奨者フォロー事業
- 重複・頻回受診者等訪問指導事業
- 併用禁忌・回避医薬品情報提供事業
- 糖尿病腎症等重症化予防事業
- CKD重症化予防事業
- 脳卒中再発予防事業
- 心筋梗塞発症・再発予防事業

ポピュレーションアプローチ(国保のみ)

- 特定健診
- 各種健診受診勧奨事業
- 肺がん胸部CT検診事業
- 脳MRI検査事業

ポピュレーションアプローチ(市民全体)

- 地域に根ざす健康づくり事業
- 特定健診実施率向上優秀地区表彰
- 糖尿病予防講演会

※協会けんぽ広島支部との「健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定」締結

※広島国際大学薬学部等とのジェネリック医薬品の品質特性試験に関する連携
「レギュラトリーサイエンスによる医薬品に関する呉地域連携試験事業覚書」締結

※後期高齢医療・国保のレセプトデータ、介護保険データを連結・分析することにより
地域課題の抽出と対策を検討

「呉市後期高齢者医療及び国民健康保険の医療介護にかかる
費用の分析と対策の検討研究」(広島大学大学院 森山美知子教授)

保健事業等による医療費適正化効果（まとめ）

事業名	事業概要	指導実施数	効果額
糖尿病性腎症等重症化予防事業	糖尿病性腎症の重症化(透析等)を防ぐことで対象者のQOLを維持し、同時に医療費の高額化を防ぐ事業	指導実施定員 22年度 50名/年 23~26年度 70名/年	予防事業
(26年度実績↓) 後発医薬品の使用促進通知	後発医薬品の使用促進を通知することで医療費の適正化を図る事業	累計通知数(累計切替者数) 30,299通(25,598名)	約 204,124千円
受診勧奨者フォロー事業 健診受診者保健指導事業	特定健診の結果等から対象者に受診勧奨や保健指導を行う事業	377名	予防事業
生活習慣病放置者フォロー事業	生活習慣病の治療を放置している人に対して受診勧奨を行う事業	訪問 123名 文書通知 395名	予防事業
(24年度実績↓) 重複受診者訪問指導	同一疾患で3以上の医療機関にかかっている対象者に訪問指導を行う事業	10名(リストアップ47名) うち削減効果あり 4名	522,980円
頻回受診者訪問指導	同一医療機関に月15日以上を受診者に訪問指導を行う事業	147名(リストアップ530名) うち削減効果あり 86名	13,510,000円
重複服薬訪問指導	同じ薬の処方が同一月に複数ある対象者に服薬の訪問指導を行う事業	指導対象者数 134名 うち削減効果あり 34名	2,323,180円
(26年度実績↓) 併用禁忌・回避医薬品情報提供	飲み合わせに問題がある医薬品処方を出し医療機関へ情報提供する事業	情報提供対象件数 禁忌2件 回避12件	予防事業

【参考資料】 地域保健対策協議会

平成25年5月現在

